

末期癌でも遅くない

□コミで次第に広まつていった秀蓮氣功だが、昨年のテレビ出演で一気に受講者が増えたという。

「実は、もう一人有名な女性超能力者が出演する予定だつたらしいんです。ところが、外国の方なのですが急に来日できなくなつてしまつて、私の出演時間が増えたらしく（笑）。じつくり取材して放送してくれたので、大変な反響がありました。私にとつてはラッキーでしたね（笑）」

そんな運の良さも、気が呼び込んだものなものかもしれない。

番組では、余命2年と宣告された直腸癌の男性が出演し、舛友氏の氣功療法で癌が消えたなどの体験を伝えた。その反響は予想以上に大きく、電話やアクセスだけでなく、手紙やメールも数多く来たという。

「世の中にはこんなに難病で苦しんでいる人がいるのかと驚きました。手紙やメールは全部読んで、

両手を広げて気を発光する舛友氏



「やはり『本当にこんなので治るのか』という人はいますよね。手からエネルギーが出ているとか分からぬですから、ただ手を当て

に見えない世界だ。だから、もともと気に理解があつたわけではない。わらをもつかむ気持ちでやってきても、なにぶん目に

が、その中で癌が無くなつたといえますから。それに、自分の周りでたとえば妹の病気が良くなつたりするのを見れば、今度は向こうから頼んできます」

癌はよく早期発見、早期治療といわれるけれど、末期だからといって、間に合わないということはない、と舛友氏は言う。

「癌に関して言えば、早期に越したことはないけれど、末期でも遅いということはありません。それよ

りも、病院でどういう治療をしていたかが重要です。たとえば抗癌剤とか、放射線とかの治療をたくさん受けた人は、気の道がふさがっているから施療しづらい。

逆に、やつかいな場所に癌があつて手術できないとか、こんなに大きくなつていているから放射線もかけられないなど、医者から見放されて何の治療も受けていない人はむしろ幸いです。組織を傷めて



舛友氏は氣功療法で奇跡的な治癒を起こしている。

難病ほど治しやすい

氣の力を信じれば、自ら「私はもう病院へは行かない。氣功だけでもやります」という人もいるという。

「そういう人は、こちらとしても

事法に触れるから、薬をやめるとか病院へ行くなどは言えません。抗癌剤を続けていくところなりますよとか、事実は教えますけれど、最終的にどうするかは結局本人の判断です」



舛友氏は氣功療法で奇跡的な治癒を起こしている。

「そういう人は、こちらとしてもやりやすい。病院も行く、抗癌剤も摂る、他の民間療法も…というやりやすい。病院も行く、抗癌剤もやるし、氣功もやる。健康食品も摂る、他の民間療法も…といつぱり、多くの人はかえって難しい面があります。そういう要素はいろいろあります。そういう要素はいろいろありますが、実は難病ほど、治しやすいんですよ。病気は糸がもつれたような状態ですから、そこを氣でほぐしてやると、一気に治つていきます」

しかし検査だけは、西洋医学の得意とするところ。他の氣功師でも、検査は病院で受けるよう指導

する人が多いのだが、舛友氏の元にはなんと「検査」を受けにやつてくる人もいるという。

「手で触ると、悪いところが分かるんです。悪いところは氣を吸うから、掌が熱くなります。癌が消えて無くなつたら、手が熱を持たなくなるので『もう癌はないんじゃない?』と伝えます。頭が痛いと言つても、手で触れて何も感じなければ異常がない。もちろんその後病院へ行つて検査してもらつたほうが良いのですが、今どこのところ100パーセント的中しています（笑）」

中国氣功と違つて、日々の修行など一切していらないという、舛友氏。それでも、「3日で癌が消えた例もあるというから驚きだ。秀蓮氣功師になるのにも修行はいらぬ。6日間のコースで『氣の転写』、つまり横になつて舛友氏の氣を受け続けるだけだという。

「ほんどの人がリラックスして眠くなるみたい。みな、グーグー寝てますよ（笑）」